H22.11.10

# 素盞雄(スサノオ)神社と大銀杏

2010井原ゼミ3年巨樹チーム（渭原嵩之，岡本彩華，佐藤あすか，鈴木隆寛，竹上瑞季，田村雅世）

奈良県桜井市初瀬の長谷寺のすぐ近く、通りから外れた森の中にひっそりとたたずむ素盞雄神社には、大銀杏(樹齢不明)が存在する。

１　大銀杏

境内に入ってすぐ左に県指定天然記念物「初瀬のイチョウの巨樹」(昭和 49 年 3 月 26 日告示)はある。実の成らない雄株で、樹高は約 40m、板張り南北約 23m、東西約 21m、目通り周囲約 7.15m、イチョウの巨樹としては、県下最大のもの。この幹周りは、６，７人が手をつないでちょうどくらいである。ちなみに、イチョウは生きた化石植物といわれ、１億５千万年前ごろは世界中に分布していたが、今では中国大陸と日本にだけ生息しているに過ぎないという。

このイチョウの存在感は非常に大きく、圧巻であった。（写真：平成 22 年 5 月 19 日撮影）

２　素盞雄(スサノオ)神社概要

素盞雄神社の背後に広がる与喜山は天神山とも呼ばれ、長谷寺の寺領として植物の伐採が禁じられている。付近の森林は、「与喜山暖帯林」として国の天然記念物に指定されている。

【由来】

社伝によると、948 年（天暦 2 年）神殿大夫武磨（こうどのたいふたけまろ）が菅公（菅原道真）の霊を与喜天満宮に祀ったとき、与喜山は天照大御神降臨の山だから、その弟神である素盞雄命の霊を鎮めなければならないと、ここへ社殿を構えたのが始まりという。

地元では、疫病除けの神様として本地佛牛頭天王（ほんじぶつごずてんのう）（＝祇園精舎の守護神）から転訛した「ごつてらさん」の俗称で人々に親しまれ、厚い信仰を集めてきた、川上区の産土神である。

【祭事】

毎年 7 月の大 2 日曜日には夏祭りが開かれ、大きく円形に作った茅の輪をくぐると疫病や罪が祓われるとされる「茅の輪くぐり」が行なわれている。この行事は蘇民将来（そみん

しょうらい）の伝承との縁が深い※。茅の輪の材料である「茅(カヤ)」は山に植え育て、祭事当日に伐採するという。

※神代の昔、スサノオ命が日が暮れて宿を借りることになった。路には蘇民将来と巨旦将来の兄弟の家があり、巨旦は富者であったが宿を断ったが、蘇民は貧者であったが喜んで宿を提供した。命はたいそう喜び、翌日蘇民に茅輪を腰につけるように言い残して出発した。その後、悪疫が流行し、多くの人が亡くなったが蘇民の家のみ助かった、という話。以来、「蘇民将来子孫」と言って茅の輪をくぐれば疫病を免れることができると言って茅の輪くぐりが全国各地の寺社でおこなわれるようになったといわれる。

素盞雄神社：奈良県桜井市初瀬 731-1

（地図出典：ならリビング.com）

参考資料：

・渡辺典博（2005）『続　巨樹・巨木』山と渓谷社

・奈良県公式 HP より　奈良県指定天然記念物一覧

<http://www.pref.nara.jp/somu-so/jourei/reiki_honbun/k4010910001.html>

・ならリビング.com

<http://www.naraliving.com/sneaker/sakurai_01.html>